



昭和堂
4,725円(税込)

日本におけるユダヤ・イスラエル論議

文獻目録1989〜2004

宮澤 正典(女子大学名誉教授)編

本書は1989年以降我が国で刊行された7000点を越えるユダヤ・イスラエルに関する編著書、翻訳、論文、ルポなどを博搜し網羅した文獻目録である。編者は「ユダヤ人論考」(新泉社)、「日本人のユダヤ・イスラエル認識」(昭和堂)などの一連の著作で、明治期以来の日本における「ユダヤ問題論議」を抱える諸問題を鋭く追究してきた。本書は1877〜1988年をカバーした同名の文獻目録(1990年、新泉社刊)に続く第二弾であるが、冷戦の終焉を告げた1989年からの

16年は、湾岸戦争、ソ連崩壊に始まり、9・11、イラク戦争に至る波乱に満ちた時代であった。本書に収録された刊行年ごとの論議の表題を読んでもいくと、この間の日本におけるユダヤ論議の趨勢とともに、混乱する時代が透けて見えてくる。

古来反ユダヤ主義には、説明困難な不幸の原因を「ユダヤ人」に求める短絡した論議がめずらしくない。目録に収録された表題のなかには湾岸戦争からパプル崩壊、ロシアの混乱から多発するテロに至るあらゆる不幸をユダヤ人やイスラエルに帰する無責任な議論もかま見えるが、同時に編者が記しているように、我が国でもユダヤ・イスラエルに関する学術研究が確実に根付いていることもわかる。文獻目録の編集とはまさに、時代を記録し、整理し、索引づける作業であり、後世の批判と検証を可能ならしめる重要な仕事であると、あらためて実感できる。

高尾千津子(早稲田大学非常勤講師)



岳洋社
2,625円(税込)

人は皆、急ぎ足の旅人

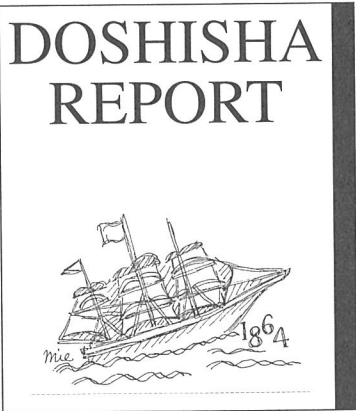
深田 尚彦(女子大学名誉教授)著

誠に、「文は人なり」である。深田尚彦氏のお人柄を彷彿とさせる言葉の数々が、ここに収録された文章の端々に如実に表されている。簡潔で淡泊、しかし凝縮された思想と人生哲学が、この一冊の内に語り尽くされている。読み進むうちに、いつか知らず、著者と直に対面して対話しているかのような錯覚に捕らわれてしまう。評者がまだほんの駆け出しの教員の頃、深田氏はすでに彼の描画行動の心理学の分野で、研究者・教育者としての高い評価を内外に博しておられた。当時という訳か、門外漢の評者にも親しく語り掛けてくださった、語り合う度には時の経過を忘れることもしばし

ばであった。この度新刊の御著書の紹介を、と御依頼を受けたこと、誠に光栄であり、感謝の極みである。

「人は皆、急ぎ足の旅人」という表題は言い得て妙。人生はまさに「急ぎ足の旅」。しかし深田氏の考えられる旅は、必ずしもネガティブで無意味な旅を意味するものではない。人生の終焉は、彼にとってはある種の完成の時であって、その完成に向かつて「今の時を」誠実に、かつ真剣に生きるべきだ、という力強いメッセージが、ここにはある。

内容は深田氏の生い立ちや人生経験の数々をも含め、幅広くしてかつ深い。描画行動に関する専門領域のテーマが披露されるかと思えば、少年時代の思い出や研究生活におけるご家族との関わりや、市井の風情が描かれる場面もあって、決して退屈させられることがない。深田氏の人生哲学を想起させる格言集、ともいへば独特な文章のスタイルもまた、みごとである。近藤十郎(女子大学現代社会学部教授)



法人部

●2006年秋の叙勲・叙位

同志社大学名誉教授谷口一郎氏が瑞宝中綬章を受章され、11月8日赤坂プリンスホテルで伝達式が行われた。

●創立記念行事

リユニオン	11月5日	10時
創立記念礼拝	11月26日	10時30分
早天祈祷会	11月29日	7時

創立131周年記念式

11月29日 9時
大学神学館礼拝堂

若王子山頂

大学

●京田辺校地開校20周年記念式を開催

2006年11月4日、大学・女子大学の京田辺校地開校20周年を祝って、同志社ローム記念館で記念式が開催された。大谷實総長の式辞、八田英二大学長、森田潤司女子大学長からの祝辞、野本真也理事長の祝辞のほか、小石原範和京都府副知事、久村哲京田辺市長らが祝辞を述べられた。参加者はおよそ1500人。

八田学長は「京都府、京田辺市等の支援のもと、1986年の開校以来順調に発展してきたが、08年予定の生命医科学部、スポーツ健康科学部設置など教育研究活動の充実と地域貢献に一層努めたい」と挨拶した。(巻頭グラビア参照)

●学研都市キャンパス開校式、快風館開館式を実施



学研都市キャンパス「良心碑」の除幕式

京都府木津町にある学研都市キャンパスの開校式と快風館開館式が、2006年11月4日に約2000人の列席を得て執り行われた。キャンパスの敷地面積は約5万㎡、快風館の延べ床面積は約8500㎡。快風館開館に当たって、大谷総長、野本理事長、八田学長、片山副学長のほか河井規子木津町長、藤城進京都府企画環境部長、四方實彦学研都市病院院長の7

氏によるテープカットが行われた。

なお、記念式典に続き、校友、教職員や多くの方からの寄金により建立された「良心碑」の除幕式が行われた。

(巻頭グラビア参照)

*写真―「良心碑」除幕式(左から片山副学長、八田学長、大谷総長、野本理事長)

●同志社京田辺祭2006開催

2006年11月4、5の両日、2回目となる「同志社京田辺祭2006(愛称・ADAM祭)」が開催された。秋晴れのうみなどで、遊ぼうでつかく、遊ぼう、学生・一般市民による模擬店やフリーマーケット、ステージ(公募20団体)、音楽ライブ、スポーツフェスティバルなど多彩な催しに、約2万人の人出で京田辺キャンパスは終日賑わった。

同志社京田辺祭は、学生・教職員・市民が交流する場として、大学と地域が連携した新しいコミュニティーの形成をめざしている。(巻頭グラビア参照)

女子大学

●国際教養学科開設記念

「英語でしゃべらナイト」講座

@同志社女子大学 9月3日

2007年4月学芸学部国際教養学科を開設することを記念して、「英語でしゃべらナイト」講座@同志社女子大学を京田辺キャンパス新島記念講堂にて開催。NHKの人気番組のメンバーが出演するとあって、3500名を超える応募があり、厳正な抽選によって選ばれた900名で会場は満席となった。バックマックスの漫才に始まり、NHKアナウ



新島記念講堂で行われた
パイプオルガンコンサート

ンサー松本和也さんとNHKチーフ・プロデューサー丸山俊一さんの対談、最後に、国際教養学科に就任予定の佐伯林規江教授を交えたトークセッションが行われ、英語を学ぶむずかしさ、楽しさについて共有した一日となった。

●創立130周年記念

パイプオルガンコンサート 10月9日

同志社女子大学創立130周年を記念して、高橋聖子氏(本学卒業生・嘱託講師)によるパイプオルガンコンサートが新島記念講堂にて開催された。

バッハ、トッカータとフーガ「二短調BWV565」、グリニー「讃歌」来れ、創り主なる聖霊よ」より、他8曲を披露。荘厳で繊細なパイプオルガンの音色に約550名の聴衆は魅了された。当日はオープンキャンパスが同時開催されており、高校生の参加者もあって、初めて見るパイプオルガンに携帯電話で写真を撮る姿も見うけられた。

●秋季リトリート

10月21・22日
同志社びわこリトリートセンターで

「与える喜び」新渡戸稲造「武士道」と

すべて学生の手によってつくりあげた。2000年以來6年ぶりとなるこの演目に学生たちは一丸となって、ファンタスティックな物語の世界観を表現した。両日合わせて約1100人の来場者があり好評を博した。

●ホームカミングデー2006

11月23日

秋の風情が漂う今出川キャンパスにて、「ホームカミングデー2006」が開催された。

今年、創立130周年を記念して、親子3代にわたって本学で学ばれたご家族3組を表彰した。記念講演では、「少しは、恩返しができたかな」と和憲が教えてくれたこと、「前だけを向いて生きる」と題して、本学卒業生の北原美貴子氏にお話いただいた。

当日は、EVE(大学祭)と栄光会(父母の会)が同時開催とあって、約1100名の参加があり、懐かしい友人と楽しいひとときを過ごしていただき、盛況のうちに終了した。

●音楽学科定期演奏会

12月16日

京都コンサートホール大ホールで、第36回定期演奏会を開催。音楽学科合唱団によるF・シューベルト「詩編23番 Op.132 D.706」「自然の中の神Op.133 D.757」と三善晃の女声合唱のための組曲「月夜三唱」、音楽学科管弦楽団によるC.M.マウエーバー歌劇「魔弾の射手序曲」とH・ベルリオズ「幻想交響曲Op.14」を演奏。約1000名を超える来聴者を迎え、成功を収めた。

高等学校

●ウエスリーカレッジ交換留学(受入)

9月15～30日

2人の女性教員に引率されて女子3人、男子6人の生徒が来日、ホームステイした。朝の礼拝で流暢な日本語で自己紹介をして同志社高校生から盛んな歓迎を受けた。生け花や習字、調理実習や日本語学習、狂言鑑賞などを校内で行い、広島研修ツアーやびわこリトリートセンターでの一泊交流、総長主催の昼食会や生徒企画の歓迎会等、忙しい日程をこな

私」と題し、池田守男氏(株)資生堂相談役・前取締役会長)に講演していただいた。他者を思いやる心は奉仕であり今日の社会に不足していること、感謝・奉仕・献身という日本人の伝統的な精神を思い起こし、相手に良いことをすれば自身が成長する「先が立ち、我も立つ」ことを教えていただいた。氏は、男女、国籍、障がいを超えた全員参加型社会を目指し、常に「give and give」でサーバント・リーダーシップを実行しておられる。その人柄と生き方に、参加者は深い感銘を受けた。爽やかな秋の2日間、学生・教職員の約70名は共に語り合い、充実した時を過ごした。

●シェイクスピアプロダクション公演

A Midsummer Night's Dream

11月10・11日

第56回の公演は、A Midsummer Night's Dream(『夏の夜の夢』)を新島記念講堂で上演。3年次と4年次の2年をかけて取り組んできた作品研究の集大成として、出演から照明、音響、衣裳、パンフレットや日本語字幕の制作など、

した。体育祭ではリレー競技に参加し、またオーストラリアの歌とダンスを全校生徒に披露して、交流を深めた。

●岩倉祭

9月28日～10月2日

体育祭をオープニングに1年生は野外特設ステージでの歌あり踊りありのパフォーマンス、2、3年生はチャペル内の特設ステージで演劇、各クラブは展示や発表、模擬店で汗を流した。岩倉祭が終わると、キャンパスの樺と銀杏が色づき始め、岩倉は秋となる。

●人権学習会

10月24日

全校生徒参加の人権学習会が人権・同和委員会主催で行なわれた。3年生はあらかじめクラスごとに希望を取り、「イラクのこどもの現状」、「働くこと・生きること」、「視覚障害者の現状課題」のテーマで講演を聞き、2年生は映画「ウィニングパス」を鑑賞、1年生は同志社大学等に留学中の中国、韓国、台湾、ネパールのアジアの学生と交流する機会を持った。ともすると日常生活のなかで見失いがちな基本的人権や民主主義の意識をゆつくり考える機会として企画され、翌

週のHRで参加して考えたことを感想文にまとめて自分で確認していた。

●秋のリトリート

11月11・12日

同志社びわこリトリートセンターで「ボランティアについて語ろう、自分探しをしてみませんか」のテーマで開催。生徒7人、教員4人が参加し、「マタイ25章、14～30節」（タラントンのたとえ）を朗読して、キリスト教科の月下先生による奨励で夕の礼拝を行なった。先生が山古志村へ行き、雪下ろしをして村の人と交流した体験談を生徒たちは興味深く聞き、その後はキャビンで暖かい鳥なべを囲みながら色々なボランティア活動や岩倉キャンパスクリスマスマスの計画などの話にいつまでも花が咲いた。

●クリスマス礼拝

12月11日

平均年齢65歳を超えるホザナコーラスのOB男性合唱団（当時はまだ女子生徒が在籍していなかった）の面々11人が母校を訪れ、昔の話を交えながらクリスマスキャロルを豊かな歌声で披露し、代表して西陣教会の深見 志氏が「迷い出た羊のたとえ」など、各学年ごとに用意さ



同志社リトリートセンターで語り合う参加者

ベル入口のみの木や銀杏の木にきらめくなか、第3回岩倉キャンパスクリスマスが開かれた。応援にかけたOB有志の計算されつくした照明にホザナコーラスや管弦楽団、2、3年生の音楽専攻生徒の合唱団の姿が幻想的に照らし出され、音楽の美しさをさらに際立たせた聖なる時が流れた。

●止揚学園訪問

12月13日

献金とリースをもって訪問。クリスマス準備の作業を手伝ったあと、食堂で皆さんとお食事、いつきても心が平安になるひと時を過ごした。

香里中高

●カナダ語学研修

7月22日～8月10日

参加者22名

本年度10回目、カナディアン・ロッキーマウンテンのレスブリッジに行った。コミュニケーションで研修。参加者の感想を聞くゲームや発表会が楽しく、毎回違うメンバーとチームを組んでやる学校のアクティビティが良かったとか、ホス



文化祭におけるコマ

トファミリィとの生活も最初は不安であったが、会話が豊富で別れる時は寂しかったとか、広大な自然に感動したり、食べ物アメリカンサイズで驚いたがとて有意義だったというものであった。

●文化祭

9月22～25日

女子生徒の入学以来、教室での展示や催し物も華やかになった。香真館（礼拝などに使用している建物）での劇、ダン

ス、歌などが増加し希望した所が全部入れないくらいだった。

●中2修学旅行

10月22～25日

昨年までと変わった点は、新千歳空港から入り札幌の見学が加わったこと。函館で宿泊せず、洞爺湖・大沼（連泊）となったことである。

●高2修学旅行

10月25～30日

出発の少し前にハワイで地震があったが情報を得て実行。航空会社が従来と変わった。

●中1フィールドワーク

10月26日

遠足を兼ねて実施。大和三山、飛鳥を班別にまわった。

●スポーツ大会

12月11・12日

高校は、11日に小春日和の中で実施。中学は、12日に朝から雨で残念ながら中止となった。

●中1世界地図プレゼンテーション

12月13日

自分達数名で旅行会社を設立し、海外旅行の商品を紹介するという設定で、各クラスの予選を経て、外部から審査員も来ていただき、決勝大会を実施した。

●**ビジネスプランコンテスト** 12月16日
同志社大学主催で行われ、高校生、大学生が参加し、本校の3年生の東直哉君が優勝し、30万円の賞金を獲得した。この大会で高校生が優勝したのは初めてのことである。

〔訂正とおわび〕 前号、83頁

〔教職員会議〕 2行目

退学届を入学辞退に訂正
重要な事柄に関わらず事実確認を怠り記載した責任は重大であり、また関係方面に多大なご迷惑をおかけしたことを深く反省し、お詫び申し上げます。

女子中高

●**イギリス語学研修** 7月23日～8月5日
高校2・3生の希望者を対象に、ベルスクール・ノーリッジ校にて研修を行う。英語の集中レッスンと一般家庭でのホームステイを軸に、課外活動や遠足も取り入れた。生徒たちは意欲的に取り組み、大きく成長した。

修養会

9月9～10日
同志社びわこトリートセンターで中

国際中高

文化祭

9月18～23日
本校の最大行事である中学体育祭・高校体育祭・中高文化祭が盛大に行われた。伝統行事となりつつある学年を越えたブロックごとの応援合戦や、生徒のオリジナルの選曲・振り付けによるステージームなど盛んな声援が飛んでいた。また、中3・高3の演劇発表等さまざまな企画に、生徒たちが積極的に参加し、楽しい期間を過ごした。

自分たちで企画し、2つ3つの役割を兼務し、全体の力にしていこう生徒たちの力強さに感動した1週間であった。

中3体験学習

9月6・7日
知多半島・南知多温泉郷で実施された。日常生活を離れ、地引き網漁、キャンプファイアーなど楽しい企画が行われた。漁業見学は波が高く、残念ながら中止となったが、生徒たちは学校生活を離れて、2日間を満喫したようであった。

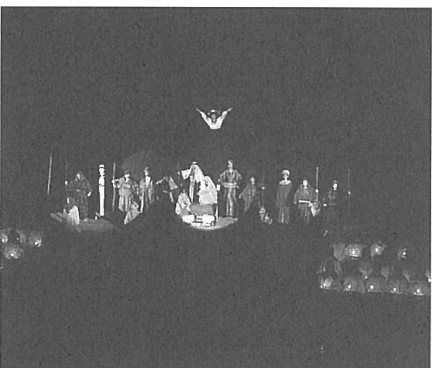
人権強調週間

10月23～27日

学2年生から高校3年生の修養会が行われた。中学生は「愛とー 友と共に」をテーマに、中野敬一先生(頤栄短期大学)を講師に迎え、高校生は「友人・隣人」を講師に迎え、「友人・隣人」をテーマに西村篤先生(同志社大学神学部)を講師に迎え、豊かな自然の中で、共に生活し、語り合った。

体育祭

10月3日
好天に恵まれ、徒競争、綱引き、仮装競演、応援合戦、プログラム最後のクラス対抗リレーに至るまで、活力ある展開



クリスマスページエントのーコマ

人権委員を中心に、人間の尊厳と基本的人権を守るこの大切さについて深く考える週間となった。外来講師の講演、ワークシヨップ等、それぞれの企画に真剣に取り組んだ。

校外学習

10月30日
中高ともに、ユニバーサルスタジオジャパンで実施され、ここで実施されている語学研修プログラムに参加した。英語科の事前学習のもと、課題に真剣に取り組みながら、楽しい一日を過ごした。

高校アドベント礼拝

11月22日
吹奏楽部・聖歌隊・高等学校3年生 Songs in English 受講生、保護者のコーラスグループの協力のもと、厳粛に執り行われた。

海外入試

12月12・13日
本校の特徴である、帰国生徒受け入れのため、例年実施している海外での入学試験が実施された。これは、海外から宿泊場所を確保しつつ、気候の違うなかを一時帰国しなければならぬ受験生に配慮したものである。

12日は、ロンドン・ニューヨーク・ロ

がなされた。

文化祭

10月5～7日
「BONNE CHANCE」(幸運を!)をテーマにして開催された。合唱コンクール、クラス・クラブ・有志による展示、演劇、ライブなど多彩な活動が行われた。

収穫感謝礼拝

11月16・17日
16日にはハンドベルの演奏、聖歌隊の合唱による賛美礼拝を持ち、17日には、果物・野菜等の収穫物を持ち寄り、礼拝を行った。また、午後には、寄せられた収穫物・献金を持って、養護施設、老人ホームなどを訪問し、交流を持った。

クリスマスページエント

12月16日
午前の部は、生徒・教職員とで、午後の部は、一般の方々、お招きした春日デイケアサービスの皆さんと共に、クリスマス礼拝を守った。生徒、教職員、礼拝参加の一般の方々から寄せられたクリスマス献金を、全国の福祉関係の施設、事業所に送った。



ユニバーサルスタジオジャパンでの校外学習

スアンゼルス・シンガポール・京都で書類選考・論文・面接による入試。

13日は、シンガポール・京都で教科試験による入試がそれぞれ行われた。

国際交流

今年度も世界各国から多くの友人たちが本校を訪れ、有意義な交流が行われた。また、本校生徒たちも海外研修にチャレンジした。主な交流プログラムは、

2006年度5中高『秋季宗教教育強調週間』

中学校	女子中高		香里中高		国際中高		高等学校			
	高校	中学	高校	中学	高校	中学				
	上島 一高 「ライアム」 「ビュティフル」	遠藤 勇司 「春在枝頭已十分」	上内 鏡子 「こねこの大事件」	大橋 邦一 「セブンス・オブ・ワンダー」	濱本京子 「真珠の痛み」	11月6日(月)	11月7日(火)	11月8日(水)	11月9日(木)	11月10日(金)
	遠藤 勇司 「痛くも長続きする ひとつのコン」	岡崎 菜佳子 「手」	大塚 慎 「みんなていっしょに 生きるため」	大橋 邦一 「イニスとグダラの マリアのコミュニケーション」	福島 旭 「希望をもつて 喜び」	(シヨート礼拝)	上島 一高 「本物の礼拝をささ げた時に起きよ」	上島 一高 「上島の重きに 気づいた瞬間」	(シヨート礼拝)	
	(シヨート礼拝)						米加田周子 「共に喜び 共に泣く」	大橋 邦一 「失われた息子 一人に囁かれること をおそれるな」	小笠原 純 「この人の すまに」	大橋 邦一 「追いはぎに襲 われた人」
	岡崎 菜佳子 「この腕の中に」	大橋 邦一 「回復ではなく 回生へ」	米加田周子 「五千人と少年」	山田 真理 「こころの平和」	大橋 邦一 「山辺に向かい われ目をあぐ」		大橋 邦一 「神の気前のよき」	岡崎 岳 「神様の愛」	木安 透 「この最後の者 にも」	上島 一高 「山辺に向かい われ目をあぐ」
									遠藤 勇司 「命がけの仕事」	上島 一高 「ただ自分に与えら れた贈物によつて」
									小笠原 純 「この人のすまに」	

講師紹介 (A・B・C順、敬称略)

遠藤 勇司 (日本基督教団高の原教会牧師)、福島 旭 (関西学院中学部宗教主事)
 浜本 京子 (日本バプテスト病院チャプレン、日本基督教団牧師)
 上島 一高 (日本基督教団新潟教会牧師)、上内 鏡子 (日本基督教団神戸イエス団教会牧師)
 木安 透 (日本基督教団世光教会牧師)、小笠原 純 (日本基督教団高槻日吉台教会牧師)
 岡崎 菜佳子 (日本基督教団正教師)、岡崎 岳 (日本基督教団須磨教会牧師)
 大橋 邦一 (立教新座中・高等学校チャプレン)、大塚 慎 (日本基督教団宇治教会牧師)
 山田 真理 (日本基督教団上鳥羽教会牧師)、米加田周子 (日本基督教団釜ヶ崎伝道所牧師)



北アルプス・唐松岳登山の夏季キャンプ (2年生)

●学園祭

まる一日であった。
 年間を通じて最大の行事である学園祭は、京都会馆で2年生行事、演劇フェスティバルを2日間にわたり開催し、舞台発表を行った。どのクラス、クラブの発表にも訴えかけるテーマがあり、また照明や舞台構成などにも工夫が凝らされ、魅力ある舞台であった。また最終日には学校で1年生や文科系クラブを中心とした展示発表と生徒会行事が催された。フ

9月26～29日

●収穫感謝礼拝・施設訪問

ホザナコロシアス、ピースリンク、宗教ハンドベルの各部生徒と生徒会執行委員が盲養護老人ホーム船岡寮を訪ね、収穫感謝礼拝で生徒が持ち寄った果物を届け、交流を行った。

●クリスマス礼拝・クリスマス燭火礼拝

イナールには各分団が踊りのパフォーマンスを競う「輝舞祭」とフォークダンス等が行われた。「輝舞祭」では、本校を訪問された青森県風間浦中学の2年生の皆さんによる「ソーラン節」のダンス披露もあり、熱い3日間の幕を閉じた。

●人権行事

人権行事では例年にならって、映画鑑賞「ヘレンケラーを知っていますか」の他、1年生ではブライインドリーディング体験、2年生では点字学習や、車椅子体験、手話、3年生では大阪コリアタウン、リパティ大阪、京都人権ゆかりの地、伏見の戦跡、ウトロ地区などを訪ねるフィールドワークの他、衣笠授産所での作業体験など、さまざまなプログラムを通して、人権についての見識を深めた。

●クリスマス礼拝・クリスマス燭火礼拝

ホザナコロシアス、ピースリンク、宗教ハンドベルの各部生徒と生徒会執行委員が盲養護老人ホーム船岡寮を訪ね、収穫感謝礼拝で生徒が持ち寄った果物を届け、交流を行った。

●クリスマス礼拝・クリスマス燭火礼拝

●Ecole Active Bilingual Jeannine Manual (フランス)との交換プログラム
 ●サマープログラム・in Amherst

中学校

●夏季キャンプ

1年生(全員参加)は7月22～30日にかけて4期、2泊3日で宮津市の本校由良キャンプサイトで海のキャンプを、また2年生(自由参加)は7月22日～8月3日にかけて4期、3泊4日の北アルプスの唐松岳登山と梅池自然園を訪ねる山のキャンプを行った。生徒達は天候にも恵まれ、海、山の自然を満喫していた。

●体育祭

各学年のクラス縦割りで、8分団によるトラック種目や綱引き、棒倒し、騎馬戦、ムカデリレー等、数多くの種目で白熱したレースを繰り広げた。一番の見どころは分団対抗リレー。各分団とも総立ちになり応援する光景がみられ、クラスだけでなく上級生や下級生との団結も深

12月21日
 2学期終業式にクリスマス礼拝を全校で持った。夕刻にはチャペルでクリスマス燭火礼拝を行い、多くの参加者で賑わった。
 ●スキーキャンプ 12月23～27日
 ●沖縄研修旅行 12月24～27日
 3年生(自由参加)は長野県志賀高原、一の瀬スキー場でのスキーキャンプ(4泊5日)と沖縄での平和学習を中心とした研修旅行(3泊4日)を行い、それぞれ思い出に残る楽しい日々を過ごした。

小学校

●1年学校合宿

7月24～25日
 1年生の合宿は、互いに助け合う心を養うことを目的として実施した。合宿ではクラスを解体しグループを作り、グループ毎に教員が付き、食事や活動、就寝などずっと一緒に生活した。子ども同士、子どもと教師がより深くつながることができた合宿となった。

●2年「花背山の家」合宿

7月27～28日

2年生の合宿は、豊かな自然に触れ、集団生活の楽しさ、協力し合う人間関係の大切さを学ぶことを目的に実施した。キャンプファイヤーをしたり、ちまきを作ったりと普段できない体験をし、思い出がいっぱいの合宿となった。

●3年「吉備少年自然の家」合宿

9月26～28日

広大な敷地を持つ宿泊施設での合宿で、自然の中で様々な体験をした。中でも子どもたちの心に残ったのは、天体観測であった。天の川が見えるなど、時間を忘れて星に見入っていた。またこの合宿では、同志社大学の学生がスタッフとして手伝ってくれた。大学生の人となりができたことも、この合宿の大きな成果だった。

●スポーツフェスティバル

10月14日

日常の体育的活動を生かしながら、より高い競技や演技に取り組む姿勢を養おうと開催した。今回のフェスティバルの特色のひとつは、縦割り班（ワイルドローパー）が中心となっていたことと、教師主導ではなく自分たちの力で取り組ま

せ、達成感を味わえるようにしたこと。今後につながるフェスティバルとなった。

●クリスマス礼拝・祝会

11月13日

同志社大学神学部の関谷直人教授を迎えて開催した。心温まる礼拝と教職員の合唱も飛び出す楽しい祝会となった。

●明心会全体会

11月15日



囲碁教室で熱心に取り組む3年生

た。

●京都学生祭典

10月8日

年中・年長組が平安神宮グラウンドで、他園の園児や学生と共に、四ツ竹を持って「よさこい」を踊った。

●秋の遠足

10月10日

全園児でバスに乗り、観修農園いもほりに出かけた。

●お茶会

10月30日

年長児がチャペル前で総長先生・理事長先生や職員の方などにお茶やお菓子を運び、日頃のお稽古のお点前をした。

●宇治ヤクルト工場見学

11月1日

全園児でバスに乗り、宇治公園でお弁当を食べた後、ヤクルト工場を見学した。

●神学部礼拝

10月25日

年長組園児が、神学部礼拝堂で園長の話を聞いて、讃美歌を歌い、共に礼拝をした。

●収穫感謝祭

11月16日

園児が各家庭から野菜や果物を持ち寄り、共に収穫を感謝して礼拝をした。

●チャリティーコンサート

12月3日

京都いのちの電話主催のチャリティー

女子中高校内で、同窓会、女子中高と共にくじ引きやグッズ商品などを販売し

●入園説明会

9月2日

2007年度の入園説明を行った。

●運動会

9月23日

女子大学テニスコートで、保護者も参加し、共に競技やダンスを行った。

●バザー

10月7日

女子中高校内で、同窓会、女子中高と共にくじ引きやグッズ商品などを販売し

同志社小学校教育後援会「明心会」の第1回全体会が宝ヶ池プリンスホテルで開催された。同志社大学長の講演、会員懇親などに引き続き、会の最後には全員で Doshisha College Song を歌い、同志社チャアーで締めくくった。

●点灯式

11月28日

同志社小学校のチャペルコートで点灯式を実施した。児童、保護者、教職員、そして同志社高校ホザナコーラスの生徒の歌声が重なり合い、チャペルコート全体に反響する中、ツリーが点灯された。

●3年囲碁教室

1月11日他

月に2回の割合で、関西棋院の棋士をお招きして、3年生が囲碁を学んでいる。囲碁の楽しさを実感しているようだ。

幼稚園

●七夕発表会

7月5・6日

幼稚園のホールで、全園児が家族を迎え、クラス毎に歌やダンス、シロホン演奏などを披露した。

●7月・8月お誕生会

7月12日

コンサートに年長組の希望園児が聖歌隊として参加した。

●親子親睦会

12月5日

全園児の親子で、八ッ橋作りの体験と、まり展示の見学を楽しんだ。

●クリスマス礼拝

12月16日

新島会館で全園児が揃って、礼拝・ページェントをし、サンタクロースが来て保護者と共にお祝いをした。



新島会館でのクリスマスページェント